



Q. 4月から中3生になります。勉強は好きなのですが、ケアレスミスが多い傾向があります。受験勉強に向けて、ミスを減らす方法があればぜひ教えてください。

まずは、「**ケアレスミスだと思わないこと**」から始めましょう。

指先から冷える季節になりました。うちの塾の受験生クラスでは、マスクをする人が増えています。この時期になると、僕自身も緊張するとともに、「あと少し頑張れば、春が来るんだな…」と次の季節に思いを馳せるようにもなります。その一方で、春とは、新しい受験生との「戦い」が始まる時期でもあります。質問者の方は4月から中3生ということですので、今日は少し厳しいアドバイスをさせて頂きたいと思います。

実は、このタイプの相談はよく頂くのですが、中学生の皆さんは、ケアレスミスを軽く見過ぎている傾向があります。ケアレスミスという言葉を使うとき、その中には「ちょっとしたミスだ」「いつでも治るよ」という意味が含まれているように思えてならないのです。「ケアレスミスは、重大なミスではない」と考える姿勢そのものに問題があるので、それに当てはまる人は、もうケアレスミスという言葉を使うのはやめましょう。軽くとらえる気持ちが、真因(真の原因)をかくしてしまいます。ケアレスミスこそが重大なミスであり、治すのに時間がかかるということ、肝に銘じてください。

具体的にみていきます。一般的に言われるケアレスミスは、以下の三種類に分けることができます。

1. 集中できていないときに起こるミス(散漫ミス)
2. 慣れていない作業をするときに起こるミス(不慣れミス)
3. 時間がなくて焦っているときに起こるミス(焦りミス)

まずは、自分のミスがどれに当てはまるのか、分析しましょう。そして、それが起こらないようにするにはどうしたら良いのか、考えてみてください。

①集中できていないときに起こるミス(散漫ミス)

[以前の記事](#)でも書かせて頂きましたが、「集中力」みたいなものは、あまり存在しないと考えるべきです。集中力がないのではなく、そもそもやる気が出ていない可能性が大きいのです。何のためにそれをするのかを考えたり、作業を細分化してみたりしましょう。作業の細分化は、数学などでも効果的です。たとえば、分母にルートが入った二つの数の足し算をする場合、①分母を有理化する、②約分などで式を綺麗にする、という二つの作業に分けることができます。「よし、まずは有理化だ」と有理化に集中し、「有理化できたぞ、次は式を綺麗にしよう」と作業を細分化して一つずつ集中しようとする、集中が持続しやすくなります。

また、どうしても集中できない場合、単純作業を行ってから勉強を始めるのもおすすめです。英語であれば、昨日読んだ文章の音読、数学であれば四則演算を含む単純な計算問題などがよいでしょう。単純作業をガアアと始めると、脳の側坐核という部分が刺激され、興奮状態になってきます。僕も東大入試本番の朝、「二桁×二桁」の掛け算の問題を自分で作って解いていました。今でも仕事の気分が乗らない時は、単純作業であるメールの返信をざっと終わらせてから難しい仕事にのぞんでいます。

②慣れていない作業をするときに起こるミス(不慣れミス)

これは、数学や英文法でよく見受けられるミスです。そういう場合は、とにかく手を動かして、同じようなタイプの問題をたくさん解きましょう。テストまでの時間が許すのであれば、同レベルの問題集をもう一冊用意してください。なぜならば、苦手な単元の場合、一つの問題集で「基礎問題→標準問題→応用問題」と進むより、同じ単元の別の問題集を用いて、「基礎問題→基礎問題(別の問題集)→標準問題→標準問題(別の問題集)→応用問題→応用問題(別の問題集)」と進めていった方が着実に力をつけることができるからです。もちろん時間がない場合は、あれこれと問題集に手を伸ばすのではなく、一冊を丁寧に仕上げてください。

③時間がなくて焦っているときに起こるミス(焦りミス)

これは、普段から時間を計らずに勉強をしている人に多いミスです。そんな方には、日常的にタイマーを使って勉強することをおすすめします。そうすれば、本番に近い状態(焦っ



ている状態)に慣れることができます。また、それだけではなく、もう一つの効果があります。それは、時間配分が上手くできるようになるということです。時間配分を上手く行うためには、「この問題は○分かかりそうぞ」と見通す力が必要です。この見通す力は、日常的に時間を計ることで身につけることができます。「あれ、意外と時間がかかったな」「おっ、この手の問題は得意だな、早く終わったぞ」とトライ&エラーを重ねることで、見通す力を自然とつけていきましょう。

いかがでしたか。ケアレスミスって、案外、奥が深いのです。「たかがケアレスミス」と放っておくのではなく、「ケアレスミスは万病のもと」ということを理解して、毎日丁寧に学習を進めてみてくださいね。応援しています！

■著者プロフィール■

清水章弘 - 2011年に東京大学教育学部を卒業し、東京大学大学院教育研究科に進学。2008年に、学習塾プラスティを立ち上げた若き起業家としても注目されている。これまでに6冊の本を出版し、中学生・高校生に「勉強のやり方」を伝えている。著書に『中学生からの勉強のやり方』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)や『現役東大生が教える! 頭がよくなる7つの習慣』(PHP文庫)がある。



<http://koukou.passnavi.com/>